

特集

第71回税理士試験の総括 ～傾向を知り、対策を立てる～



明けましておめでとうございます。本年もよろしく
お願い致します。

先日、第71回税理士試験の結果発表がありました。
試験結果のご報告をいただいた皆様、誠にありがとう
ございました。そして合格を勝ち取った方々、本当に
おめでとうございます！

今回の特集は第71回税理士試験の総括となっております。受験する科目の傾向を知り、対策を立てることで効率的な学習を行うことができます。ぜひご一読ください。

また、1月から学習を開始された方々につきましては、本年度のバックナンバー（VOL 1、2）もご覧いただけますので、こちらもぜひご覧ください。

第71回税理士試験の総括

～傾向を知り、対策を立てる～

簿記論

(1)第71回税理士試験出題内容

①第一問

問1：資料から取引を推定し、帳簿及び勘定間の繋がり の理解を問う問題

問2：割賦販売における利息区分法と固定資産の割賦購入において、償却原価法を採用した場合の処理の理解を問う問題

②第二問

問1：固定資産について自家建設・交換・購入で取得した場合に、その取得原価と減価償却の会計処理の理解を問う問題

問2：子会社株式の取得と、その後一部売却した場合の個別上の会計処理及び連結精算表上の処理についての理解を問う問題

③第三問

決算整理前残高試算表から決算整理後残高試算表を作成する問題

(2)合格答案の傾向

第71回本試験は第一問・第二問で未学習の項目が出題され難易度が高めの問題でしたが、例年と同様に難易度が低めの論点について確実に得点を積み重ねていくことが合格に必要であったといえます。

合格されている方は、第一問の問1の減価償却費、当座、備品、問2の売主の販売時の割引現在価値の算定及び販売時の仕訳、第二問の問1の自家建設をした工場の取得原価、問2の子会社株式の一部売却について連結精算表上の処理以外で確実に得点を積み上げられておりました。

また、第三問では在外支店の論点が絡む箇所は難易度が高かったですが、現金、当座預金、買掛金、有価証券、有形固定資産、ゴルフ会員権、社債、従業員賞与を中心に得点を積み上げることができたかどうか合否の分かれ目になったと考えられます。

(3)第72回税理士試験に向けての学習方針

近年の本試験は、第一問から第三問を通して容易に解答が可能な項目とそうでない項目のメリハリがはっきりとしています。容易に解答が可能な項目のほとんどは、レギュラー期に学習した項目ばかりです。レギュラー期の項目で確実に得点できるように苦手項目を徹底的に潰しましょう。そして、レギュラー期の項目はいかに速く、かつ、正確に解答できるかがポイントですので、反復練習をしっかりと行うことが重要です。また、個別問題では1つの取引について複数の会計処理の同異やその特徴、立場の違いにおける会計処理が多く問われております。このような視点で知識の整理を行うことも重要です。

合わせて、容易に解答が可能な項目とそうでない項目の判断を迅速に行い、容易に解答可能な項目については正確に解答を行い、そうでない項目はあまり時間を割かず後回しにするといった解答戦略も必要です。これについては、4月期以降の各種答練や過去問の解答を通じて、練習を重ねていきましょう。また、解答後は今回解答した問題について、項目の見直しだけでなく解答戦略の振り返りを必ず行いましょう。そして、次回の模擬試験に向けての対策を行うことで、合格答案の作成に必要な力を身に付けることができます。

財務諸表論

(1)第71回税理士試験出題内容

①第一問

「会計上の見積り」に関わる内容から全般的に出題されました。個別には、概念フレームワークから財務諸表の構成要素に関する認識の契機や認識に関する蓋然性が問われています。また、引当金、固定資産の減損処理等が横断的に問われました。

②第二問

発生主義の基礎概念となるキャッシュ・フローの配分、一致（合致）の原則や収支額基準をベースにした出題でした。「企業会計原則」からの伝統的な考え方から当期業績主義や包括主義、費用収益対応原則、発生基準などが問われています。また、前記の考え方とのつながりから為替予約取引に関する2つの処理（独立処理及び振当処理）の内容が問われました。

③第三問

会社法及び会社計算規則に準拠した計算書類の作成でした。株主資本等変動計算書や個別注記表（会計方針の注記）の内容も問われました。

(2)合格答案の傾向

第一問では、近年の出題傾向が踏襲され、記号選択から関連する内容の論述に流れる形式でした。記号選択では問題文を慎重に読み取り、確実に正答する必要がありました。また、論述部分では部分点を確実に取れている方が合格されています。特に、最後の固定資産の減損処理に関する論述では問題文の読み取りで出来ている方とそうでない方の差が付いているため、慎重に読み取る必要がありました。

第二問では、「企業会計原則」の空欄の穴埋めや「当期業績主義」の用語の記述、期間損益計算の構造に関する記述の穴埋め、為替予約取引の会計処理に関する記号選択では多くを正答する必要がありました。また、為替予約取引の会計処理に関する論述部分は、難易度が非常に高い出題となったため、空欄にせず結論のみでも合わせることもできた方は非常に有利となりました。

第三問では難易度・ボリュームともに標準的なものでしたので、一般的な解答が求められ、7割前後の得点の確保が必要でした。固定資産の減損処理では割引前将来キャッシュ・フロー及び使用価値の算定に大規模修繕による支出を考慮し、適切な係数を用いて計算を行う必要がありました。また、退職給付では数理計算上の差異の費用処理が発生年度からであり、さらに定率法での算定でした。これらの今まで出題されてこなかったものに対応できた方は有利でした。

(3)第72回税理士試験に向けての学習方針

理論では、近年の傾向では、理解を問う記号選択や重要なキーワードとなる会計用語の記述、抽象的な問いから問題文を読み取る文章作成問題等が続いています。出題形式も多様となっているため、これらに対応する能力を養う必要があります。また、事例を用いた出題や金額推定など計算の知識により解答を導き出す出題にも対応していく必要があります。

計算では、頻出の基礎的論点でベースとなる得点を確保しつつ、未出題の項目や新たな資料形式であっても問題文の指示に従い臨機応変に対応できるようにしていくことが大切です。そこで、過去試験問題の解答や直前対策時期の答練は必須の対策となります。

所得税法

(1)第71回税理士試験出題内容

①第一問

問1 青色申告特別控除

問2 新型コロナウイルス等に関連する給付金等5項目の課税又は非課税の判定、課税される場合の所得区分及びその理由

②第二問

問1 不動産所得及び譲渡所得を中心とした税額計算までの総合問題

問2 配偶者居住権に関する譲渡所得の個別問題

(2)合格答案の傾向

理論の問1は基本論点の個別理論であることから、ここで如何に点数を伸ばせたかがポイントでした。また、問2は理由の記述など難易度は高めであったものの、直前期に学習していた項目は確実に得点すべきでした。

計算はボリュームが多く、かつ、かなり難易度の高い問題で、特に問2は全く手を付けられなかったという方が殆どでした。ただし、理論にそれほど時間を必要としなかったため、合格者の多くは問1の不動産所得や所得控除などの解答可能な箇所じっくりと時間をかけ、点数を伸ばしていたようです。

(3)第72回税理士試験に向けての学習方針

理論に関しては、範囲を絞ることなく、かつ、暗記の精度を高いレベルまで上げることが大前提です。また、普段の学習から実際に書く練習を取り入れ、用紙の必要枚数や解答の所要時間を把握することも必要でしょう。近年では、基本項目はもちろん、改正項目、通達や判例、時事問題などバラエティーに富んだ出題傾向にありますので、第72回試験対策に必要なものは講義内でお伝えし、ミニテストや模擬試験等で練習する機会を設けていきます。

計算に関しては、難しい項目にとらわれ過ぎず、基本項目を正確かつスピーディーに解答できるように練習しましょう。

また、全体として、これまでは理論50分、計算70分の時間配分が目安でしたが、近年はこれにこだわり過ぎると点数が伸びない傾向にあります。従って、理論ではタイトル挙げ、計算問題では素読みがボリュームを判断するために大きな意味合いを持ってきますので、日々練習していきましょう。

法人税法

(1)第71回税理士試験出題内容

①第一問

要求された法令を精度よく解答すること、また、事例問題では具体的な分析をしつつ、法的な理由を付して解答することが求められていました。設問ごとの具体的な論点は次の通りです。

問1(1)法人税法22条の2の収益の計上時期、計上額について

(2)機械装置の販売及び保守サービスの収益の計上時期及び計上額について

(3)協力金についての税務上の取扱いについて

問2(1)広告宣伝用資産の贈与についての税務上の取扱い

(2)フードバンクへの無償提供についての税務上の取扱い

(3)売掛債権放棄時の税務上の取扱い

②第二問

出題形式は前回の本試験と同様に、大問2題での出題であり、更にそれぞれが個別問題に分かれておりました。また、留保・社外流出の別を記載する旨の要求等細かい指示もありました。出題項目としては、問1は、租税公課、納税充当金等、グループ法人税制、貸倒損失、貸倒引当金、問2は、解散をテーマに解散欠損金、残余財産の分配を受けた時の取扱いが出題されました。

(2)合格答案の傾向

理論の問1(1)については、理論暗記の高い精度を求められました。(2)については、機械の購入と保守サービスについて2つを分けて、帰属、金額について正確に触れられているかが求められておりました。(3)については、(2)と同様、いつ益金の額に算入されるか、具体的な事例にあてはめられるかがポイントでした。

問2につきましては、法的根拠に触れつつ説明できているかが重要でした。(1)は平易な内容のため、高い精度が求められます。(2)は寄附金として認識をするか、損金算入されるかどうかの判断ができていれば問題なかったと考えられます。(3)は売掛債権の放棄について、グループ寄附に該当する旨に触れ、かつ、寄附修正に気づけたかがポイントでした。

計算については、問1は基本的な項目の出題が多く、正答すべき箇所の取りこぼしが如何に少なかったかがポイントです。問2は全体的に難易度が高く、正答できる箇所を少しでも拾えているかがポイントでした。

(3)第72回税理士試験に向けての学習方針

理論については、個別理論の正確な暗記はもちろん、適用要件など中心に計算と連動して学習を進めることが大事です。また、事実関係を法令にあてはめて分析する力が必要です。そのためには各規程を暗記するだけではなく、その規定の意味合いを理解し、説明できるようにして頂きたいと思います。

計算については、基礎項目の習熟度を高めることが重要です。基礎項目をどんなパターンで出題されても対応できるようにしましょう。そのためには計算問題集の解答などのアウトプットのみならず、適宜計算テキストを読み直し、正しい知識をインプットし、またブラッシュアップして頂ければと思います。また、理論学習と合わせて適用要件、適用資産などの要件にも気を配るようにしましょう。

相続税法

(1)第71回税理士試験出題内容

①第一問

贈与税の納税義務者と課税財産の範囲・課税価格を問う事例形式の問題

②第二問

持分の定めのない法人を利用した税回避防止を問う事例形式の問題

(2)合格答案の傾向

第一問の問1は、事例に即して贈与時ごとに正確に解答できていること。問2は、非常に難解な問題であったため、関連規定自体が挙げられていること。第二問に関しては、未学習項目以外の項目に関して、多く解答できていることが合格答案の傾向として見て取れる状況でした。

(3)第72回税理士試験に向けての学習方針

近年の本試験の理論に関しては、問1、問2ともに事例形式の出題が続いており、今後もこの傾向が続くことが予想されます。個別理論の理解を深めることと、他の規定との関連なども把握した上で、事例形式の問題に即した解答方法及び関連規定の見極め、解答する項目の選択を正確に行えるようにするための学習が重要となります。

計算に関しては、未学習論点に左右されずに、既学習項目を正確に素早く処理できるように基本的な論点を反復練習し、既学習項目は止まらずにスムーズに解答できるようにすることが重要です。また、既学習項目でも取捨選択を意識していきましょう。

消費税法

(1)第71回税理士試験出題内容

①第一問

問1 調整対象固定資産に関する仕入控除税額の調整など制度の内容を問う個別理論問題

問2 特定役務の提供の内容など事例に基づき税務相談等を行うにあたり必要な知識を問う正誤問題

②第二問

問1 原則計算（軽減税率、課税売上割合に準ずる割合）

問2 調整対象固定資産及び居住用賃貸建物に係る仕入控除税額の調整

(2)合格答案の傾向

①第一問

問1は、適用要件等の各規定の基本的内容を精度高く解答すること、問2は、少なくとも2問以上結論を正答し、判断根拠を説明できていることが必要であったと考えられます。

②第二問

難易度が高く、解答量が非常に多かったため、完答は困難でした。問1は、取引区分と適用税率の判断など集計以外の箇所で正答すること、問2は、正答可能な箇所を確実に得点できていることが必要であったと考えられます。

(3)第72回税理士試験に向けての学習方針

理論は、幅広く出題される傾向であるため、満遍なく知識を習得することを念頭に、各規定の骨子を把握のうえ正確に暗記しましょう。また、事例問題のように状況に沿った判断が求められますので、理論の暗記は理解を伴うものであることが重要です。

計算は、教材掲載項目を漏れなく習得し、正答率を高めることが重要です。知識の定着を図ることが解答スピードの向上にも繋がります。また、多様な出題に対応できるよう判断根拠となる理論との連動を意識して学習しましょう。

酒税法

(1)第71回税理士試験出題内容

①第一問

問1 未納税移出及び輸出免税に関する応用理論問題

問2 酒類の販売業免許に関する個別理論問題、販売業の譲り受けに関する応用理論問題

②第二問

酒類の品目判定及び税額計算問題

(2)合格答案の傾向

第一問（理論）は、問1の応用理論問題及び問2の個別理論問題について十分に解答するとともに、難易度が高かった問2の応用理論問題についても要点を解答していた答案が合格答案となり得たようです。第二問（計算）は、例年どおり正確な解答が必要ですが、酒類の品目判定のほか、特に税額計算に関する資料の難易度が高くなっており、税額計算において2箇所程度のミスであれば最終値を合わせていなくても合格答案となり得たようです。

(3)第72回税理士試験に向けての学習方針

理論問題については、個別規定のインプットの完成度を高めるとともに、各規定に係る趣旨の理解とインプット、応用理論問題対策、そして題意を確実に読み取ることも必要です。計算問題については、最終値勝負でないとしても、ケアレスミスを防ぎ、迅速で正確な処理能力を養いましょう。

(1)第71回税理士試験出題内容

①第一問

問1 差押えを解除することができる場合を列挙する個別複合問題

問2 売却決定に関する制度趣旨及び売却決定が取り消される場合を列挙する個別複合問題

②第二問

問1 換価執行決定の制度趣旨及び換価執行決定の手続を問う事例問題

問2 換価執行決定がされた場合の配当計算

(2)合格答案の傾向

難解な箇所はありましたが、多くの方が解答できておらず合否への影響はなかったようです。また、個別複合問題や配当計算が数年ぶりに出題されましたが、教材を満遍なく確認できていた方は対応できていたようです。

(3)第72回税理士試験に向けての学習方針

個別理論の出題もあるため理論対策も必要ですが、事例問題では基礎項目の深い理解が問われる傾向があることから、条文の丸暗記だけに学習が偏ることなく、理論テキストの解説ページを読み込み、制度趣旨等を理解したうえでの暗記が必要です。

住民税

(1)第71回税理士試験出題内容

①第一問

問1 ひとり親控除、寡婦控除、寡婦及びひとり親に対する人的非課税措置

問2 個人住民税の長期譲渡所得の課税の特例に関する適用要件、税率等

②第二問

個人住民税の各種所得・課税標準・所得控除・税額算定（税額控除）・特別徴収・非課税

(2)合格答案の傾向

理論問題問1のひとり親控除、寡婦控除、寡婦及びひとり親に対する人的非課税措置については、直前の模擬試験に出題した問題と類似した問題でしたので、迷うことなく書けたようです。ただ、ひとり親控除、寡婦控除の直接的な趣旨や問2の適用要件について解答することは、合格者の中でも言及することは難しかったようです。

計算は最終値が合わなくても合格しているようです。また、答案用紙が指定されていない者の非課税判定なども解答することで加点があったものと思われます。計算が合っている方は、理論が不十分なところがあっても合格し、逆に計算でミスしてしまった方でも、理論が手厚くできていた方は、合格しているようでした。つまり、理論、計算バランスよくできている方が総合点で合格点を取れたようです。

(3)第72回税理士試験に向けての学習方針

基本的な理論を網羅的に押さえると共に、出題が予想される箇所は特に注意しておきましょう。また、計算問題に対処できるように、計算演習等の十分な準備が必要となります。学習した項目の習熟を目指すことが必要です。改正論点については、出題確率が高いのでしっかり対策しておきましょう。

事業税

(1)第71回税理士試験出題内容

①第一問

問1(1) 中間申告納付

問1(2) 清算中の各事業年度の申告納付

問2 所得課税法人と収入金額課税法人の課税標準等の違いに関する事例問題

②第二問

問1 外形標準課税の税額算定

問2 個人事業税（廃止年分）の税額算定

(2)合格答案の傾向

理論問1はBランクからの出題であり、完成度の高い解答が必要でした。問2は「課税標準」「標準税率」「業種ごとの分割基準」の相違について要領よくまとめる必要がありました。計算問1は解答量の多いため、税額まで正解が出せなくても、必要な部分の解答ができていれば合格です。問2の個人事業税は「廃止」という論点ですが、税額まで正しく計算できている方は良い結果が出ています。

(3)第72回税理士試験に向けての学習方針

理論は「基本理論」を確実に覚え、その上で「事例形式」への対応が必要です。

計算は二問形式での出題のため、解答に時間がかかり、正確性も要求されます。外形標準課税の演習を中心に解答のスピードアップと正確性の向上を目指して学習を進めましょう。

固定資産税

(1)第71回税理士試験出題内容

①第一問

問1 固定資産税に関する申告制度の趣旨及び内容

問2 免税点の趣旨、内容及び判定方法と土地名寄帳及び家屋名寄帳の内容

②第二問

問1 土地（宅地、農地）の税額

問2 大規模の償却資産の課税標準額

(2)合格答案の傾向

理論問題である第一問は、問1・問2ともに解答し易い内容でしたが、第二問の解答量が非常に多く第一問に充てられる解答時間が少なかったため、多少内容を省略した箇所や一部解答しなかった箇所があっても合格答案となりました。但し、問われている内容をある程度満遍なく網羅した解答が必要でした。計算問題である第二問は、解答量が多いものの難易度は高くなかったため、最後まで解答し正解することが必要でした。なお、問1は最終値の正解がほぼ必須でしたが、問2は最終値が一部不正解でも第一問の出来次第では合格できたようです。また、問2は円単位、千円単位どちらの解答でも合格答案となりました。

(3)第72回税理士試験に向けての学習方針

これまでと大きく変わることはなく、計算においては迅速かつ正確に解答できる力を、理論においては暗記のみならず応用力を養うことが重要となります。71回の理論問題は解答し易い内容でしたが、70回までの近年の傾向としてはやや難易度の高い応用問題が多くなっていますので、引き続きしっかりと暗記を心掛けるとともに、応用理論テキストの過去試験問題等を中心とした応用理論対策に取り組む必要があります。

O-HARA Career Staff

自己PRについて

今回は、採用選考にて必ず聞かれるといってもいい「自己PR」についてです。

自分の良いところを相手に説明するのは意外に難しいと感じる方も多いと思います。どのようにアピールすればいいのかを一緒に考えてみましょう。

なぜ、自己PRが必要なのか？

履歴書に記載されている学歴・職歴・保有資格だけでは伝えきれない、人柄や仕事に対する意欲や姿勢を伝える役割があります。

採用担当者は、その自己PRを見て応募者の個性や強みを把握し、「募集している職種やポジションにマッチしているのか？」「今後の活躍の可能性はどれくらいあるのか？」「会社の風土に合っているのか？」などを判断していきます。

自己PRの内容は、今までの経験の中で意欲的に取り組んできたことやこれまでの成果などを、エピソードを交えて具体的に伝え、それらを活かして応募先でどのように活躍できるのかを伝えます。

まずは自分自身について理解しておく必要があります。

何を伝えればいいのか？

自己PRを作成する際にまず取り掛かっていただきたいのが、「経験の棚卸し」です。

これまでご自身が経験してきたことを改めて振り返り、「頑張って取り組んだこと」や「周囲から評価を受けたこと」などを洗い出し整理します。

特に社会人経験がある方の転職の場合は、これまでの職務経験（キャリア）を整理して、どの強みに焦点を当ててアピールするのかを考えることが重要になります。

ご自身の経験を洗い出した後は、志望する会社の募集内容を確認し、求めている人物像とご自身の強みの共通点を探りましょう。「会社が求めている人材とうまくマッチしていない」と感じる場合は、これまでの経験を改めて見返し、活かせる強みがないかを考えてみましょう。

自己PRを作文する

以下の3つのポイントを意識して作成してみましょう。

- ①タイトル：ご自身の長所や強み
- ②エピソード：具体的なエピソードと成果（結果）
- ③結論：その強みをどのように活かすか

ご自身の強みを「タイトル」として、それを裏づける具体的な「エピソード」を述べます。客観的な評価や数値などを入れると、より説得力のある文章に仕上げることができます。

過去のエピソードは、主張に根拠を持たせるための材料です。「〇〇を頑張りました」「〇〇を取得しました」といったように単に事実を伝えるだけでは強みとしては効力が弱くなってしまいます。

そして「結論」として、アピールした能力を使って会社でどのように活躍できるか・活躍したいのかを伝えていきます。会社で活躍する姿をイメージしてもらい、自分を採用するメリットを感じていただけるようにしましょう。

就職・転職に関するご相談は

大原キャリアスタッフ

<https://www.o-hara.ac.jp/career/>

※エリアによりサービス内容が異なります。

次回のVol. 4号は2月発刊の予定となります。

WIN

ウィン Vol.3

●第26巻第3号通巻220号 ●2022年1月22日発行

●発行所/大原簿記学校 〒101-0065東京都千代田区西神田1-2-10



最新の受験情報満載！

大原の税理士メルマガ 毎月無料配信中！

メルマガ登録はこちらから <http://www.o-hara.ac.jp/goukaku>

大原 メルマガ 検索